

芥川龍之介歌集

芥川龍之介

青空文庫

目次

紫天鷲絨／桐／薔薇／客中恋／若人／砂上遅日

紫天鷲絨

やはらかく深紫の天鷲絨ビロウドをなづる心地か春の暮れゆく

いそいそと燕もまへりあたゝかく郵便馬車をぬらす春雨

ほの赤く岐阜提灯もともりけり「二つ巴」の春の夕ぐれ（明治座
三月狂言）

戯ジョーカー 奴の紅き上衣に埃の香かすかにしみて春はくれにけり

なやましく春は暮れゆく踊り子の金紗の裾に春は暮れゆく

春漏の水のひゞきかあるはまた舞姫のうつとほき鼓か（京都旅情）

片恋のわが世さみしくヒヤシンスうすむらさきににほひそめけり

恋すればうら若ければかばかりに薔薇さうびの香にもなみだするらむ

麦畑の萌黄天鷲絨芥子けしの花五月の空にそよ風のふく

五月来ぬわすれな草もわが恋も今しほのかににほひづるらむ

刈麦のにほひに雲もうす黄なる野薔薇のかげの夏の日の恋

うかれ女のうすき恋よりかきつばたうす紫に匂ひそめけむ

桐
(To Signorina Y. Y.)

君をみていくとせかへしかくてまた桐の花さく日とはなりける

君とふとかよひなれにしあけくれをいくたびふみし落椿ども

広重のふるき版画のてぎはりもわすれがたかり君とみればか

いつとなくいとけなき日のかなしみをわれにおしへし桐の花はも

病室のまどにかひたる紅き鳥しきりになきて君おもはする

夕さればあたごホテルも灯ともしぬわがかなしみをめざまさむと
て

草いろの帷とぼりのかげに灯ともしてなみだする子よ何をおもへる

くすり香もつめたくしむは病室の窓にさきたるサフラン泊芙藍の花

青チヨオク ADIEU と壁にかきすてゝ出でゆきし子のゆくゑしら
ずも

その日さりて消息もなくなりたる風ふう騷そうの子をとがめたまひそ
いととほき花桐の香のそことなくおとづれくるをいかにせましや

(四・九・一四)

薔薇

すがれたる薔薇きょうびをまきておくこそふさはしからむ恋の逮夜は

香料をふりそゝぎたるふし床より恋の柩にしくものはなし

にほひよき絹のクツサン小枕薔薇色の羽ねぶとんもてきづかれし墓

夜あくれば行路の人となりぬべきわれらぞきはな泣きそ女よ

其夜より娼婦の如くなまめける人となりしをいとふのみかは

わが足に膏あぶらそゝがむ人もがなそを黒髪にぬぐふ子もがな（寺院に
て三首）

ほのぐらきわがたましひの黄昏をかすかにともる黄蠟もあり

うなだれて白夜の市をあゆむ時聖金曜の鐘のなる時

ほのかなる麝じゃかう香の風のわれにふく紅燈集の中の国より

かりそめの涙なれどもよりそひて泣けばぞ恋のごとくかなしき

うす黄なる寝台の幕のものうくもゆらげるまゝに秋は来にけむ

薔薇よさにはひな出でそあかつきの薄らあかりに泣く女あり

(九・六・一四)

客中恋

初夏の都大路の夕あかりふたゝび君とゆくよしもがな

海は今青き暁をしばたゝき静に夜を待てるならじか

君が家の緋の房長き燈籠も今かほのかに灯しするらむ

都こそかゝる夕はしのぼるれ愛宕ほてるも灯をやともすと

黒船のとほき灯にさへ若人は涙落しぬ恋の如くに

幾山河さすらふよりもかなしきは都大路をひとり行くこと

憂しや恋ろまんちつくの少年は日ねもすひとり涙流すも

かなしみは君がしめたる其宵の印度更紗いんどさらせの帯よりや来し

二日月君が小指の爪よりもほのかにさすはあはれなるかな

何をかもさは歎くらむ旅人よ蜜柑畑の棚によりつゝ

ともしびも雨にぬれたるしきいし石も君送る夜はあはれふかゝり

ときすてし紹の夏帯の水あさぎなまめくまゝに夏や往にけむ

(VIII
XI
XIV)

若人 (旋頭歌)

うら若き都人こそかなしかりけれ。失ひし夢を求むと市を歩^{まち}める。

マロニエ
橡の花もひそかにさけるならじか。夢未多かりし日を思ひ出でよ
と。

たはれ女のうつゝ無げにも青みたる眼か。かはたれの空に生まるゝ
二日の月か。

しのびかに黒髪の子の泣く音きこゆる。初恋のありとも見えぬ薄
ら明りに。

さばかりにおもはゆげにもいらへ給ひそ。緋の房の長き団扇にか
くれ給ひそ。

なつかしき人形町の二日月はも。若う人の涙を誘ふ二日月はも。

いとせめて泣くべく人を恋ひもこそすれ。黄蠟の涙おとすと燃ゆ
る如くに。

湯沸器サモワールの湯気もほのかにももの思ふらし。我友の西鶴めきし恋語り
より。(Kに)

ほゝけたる花ふり落す おほかはやなぎ大川楊。水にしも恋やするらむ大川楊。

香油よりつめたき雨にひたもぬれつゝ。たそがれの銀座通をゆく
は誰が子ぞ。

恋すてふ戯れすなる若き道化は。かりそめの涙おとすを常とする
かも。

何時となく恋もものうくなり
にけらしな。移り香の（憂しや）
つめたくなりまさる如。

（IX XV XIV）

砂上遅日

うつゝなきまひるのうみは砂のむた雲母きんぼのごとくまばゆくもある
か

八百日ゆく遠の渚は銀泥ぎんでいの水ぬるませて日にかゞやくも

きらゝかにこゝだ身動みぢろぐいさゝ波砂に消けなむとするいさゝ波

いさゝ波あ生れも出でねと高たかあめ天ゆ光はちゞにふれり光は

光くわうりん輪は空にきはなしその空の下につどへるあま蜚少女はも

むらがるる海あま女らことごと恥なしと空はもだしてかゞやけるかも

うつそみの女人眠るとまかゞよふこかい巨海は息をひそむらむかも

莊しやうげん嚴の光の下にまどろめる女人の乳こそくろみたりしか

いさゝ波かゞよふきはみはろばると弘法麦の葉は照りゆらぎ

きらゝ雲むかぶすきはみはろばろと弘法麦の葉は照りゆらぎ

雲の影おつるすなはちふかぶかと弘法麦は青みふすかも

雲の影さかるすなはちはろばろと弘法麦の葉は照りゆらぎ

青空文庫情報

底本：「芥川龍之介全集 第一巻」岩波書店

1995（平成7）年11月8日発行

入力：もりみつじゅんじ

校正：本木まゆみ

1999年7月18日公開

2004年2月9日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたった

のは、ボランテイアの皆さんです。

芥川龍之介歌集

芥川龍之介

2020年 7月12日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しむ青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>